

推進校別事業実績報告書

<取組と成果のポイント>

- ◎コミュニケーション能力を育む手だてを取り入れた、「道德の時間」の充実を図ったことで、自分の意見を書いたり、話したりして伝えることができる生徒が増えてきた。
- ◎全校一斉道德授業や講演会などを通して、各クラス・各学年が一体となって、道德教育を行うことで、教師・生徒・家庭・地域の方々との連携や意識の共通化ができた。
- ◎縦割り活動を積極的に取り入れることで、それぞれの学年で刺激し合い、日常生活につながる取り組みができた。

1 推進校（又は推進地域）の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	生徒数	備 考
蒲郡市立塩津中学校	愛知県蒲郡市竹谷町上ノ山2	0533 (68) 2510	3 2 4 人	

2 研究課題

- (1) 本校の教育課題をふまえた道德教育の内容の重点化
 - ① 規範意識を高め、公共心をはぐくむ道德教育
 - ② 人間としての在り方・生き方の自覚を深める道德教育
- (2) 道德教育の計画的推進と道德の時間の指導の工夫
 - ① 道德教育用教材の効果的な活用
 - ② 「心のノート」の効果的な活用
- (3) 指導体制や家庭・地域との連携の充実
 - ① 道德教育推進教師を中心とした指導体制の在り方
 - ② 家庭・地域等との一体的な推進の在り方

3 研究主題とその設定理由

「心豊かで、よりよい生き方を求める生徒の育成」

本校では、校訓「**するどく 豊かに ねばり強く**」のもと、「活みなぎるさわやかな塩津中生徒の育成」をめざし、日々実践を重ねている。

本校の生徒は、一小学校から入学してきており、6年間で培ってきた人間関係をなかなか崩せず、良くも悪くも保守的な集団となっていることが多い。また、外国籍の生徒が多く、生活習慣の違いから集団の規律が徹底しにくく、生活指導の難しい状況が目立つようになってきた。一方、学校行事などで、一生懸命に取り組んだり、こつこつと地道に自分の仕事をしたり、大きなパワーを見せたりするなど、輝く姿を見せている生徒も多い。

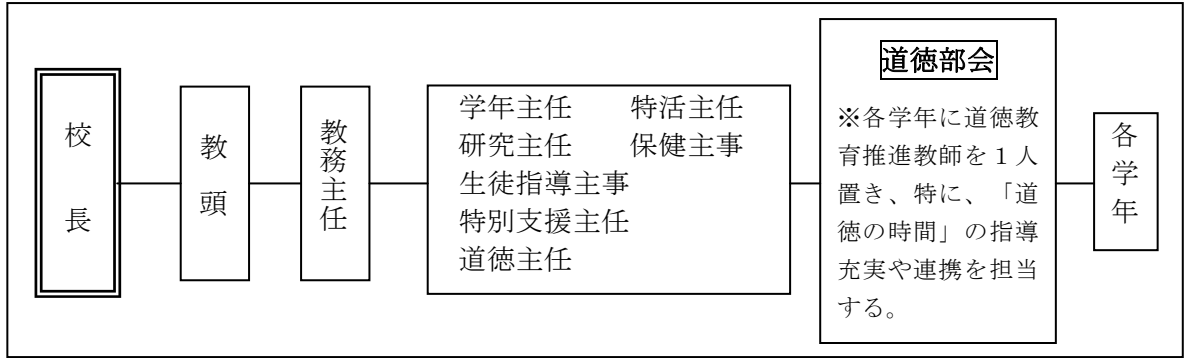
こうした実態に対し、善悪を判断する力や規範意識を育てたり、集団の中で望ましい人間関係を構築する力を育てたりするなど、人間としての在り方や生き方の自覚を深めるための道德教育の実践的な取組が必要であると考えた。そのために、道德教育の要である「道德の時間」の指導の充実に力を入れ、そこから教育活動全般を通して、研究・研修計画を推進する。

4 研究の概要及び特色

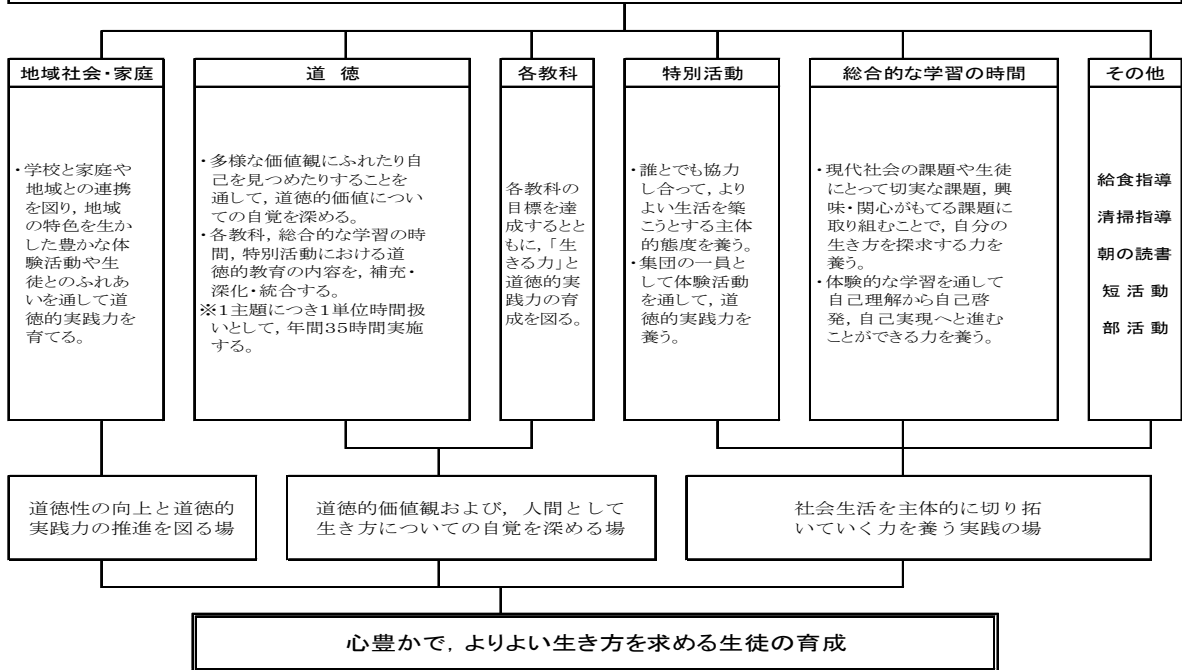
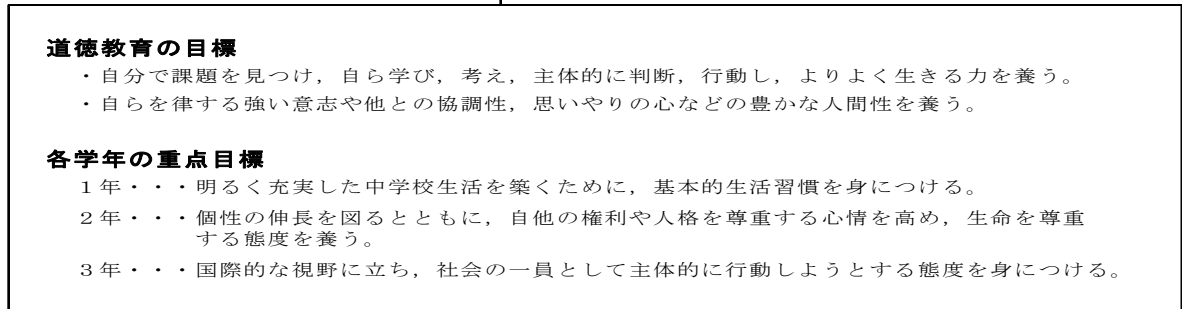
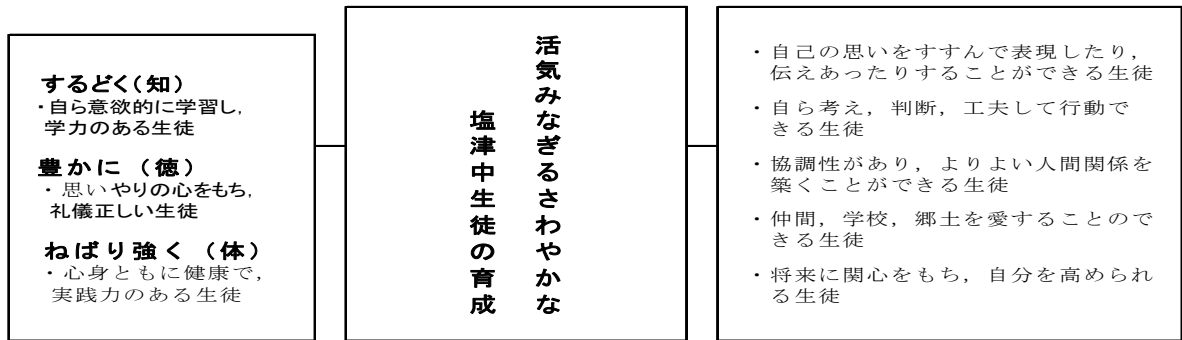
(1) 研究仮説

学校教育全般を通して、道德の時間と各教科・特別活動・総合的な学習の時間との連携を図りながら、道德的実践力を養うことを視点とした道德教育を推進することで、生徒一人ひとりが心豊かで、よりよい生き方を求めることができるであろう。また、家庭や地域の教育力を生かす連携の在り方についても研究することで、目指す生徒像により近づくことができると考えた。

(2) 研究組織



(3) 研究構想



(4) 研究課題にかかわる取組

- ① 「道德の時間」の充実
- ② 授業参観日における全校一斉の道德授業公開
- ③ 学校保健集会と連動した授業の組み立て
- ④ 自分の将来を考える「生き方講演会」の設定
- ⑤ 縦割り活動を取り入れた学校教育活動の充実

5 研究の評価

(1) 研究の成果

① 「道德の時間」の充実

「道德の時間を見ると、学級経営の状態が分かる」とよく言われる通り、道德の時間の授業力の向上が、重要な課題になっている。しかし、授業計画など、担任一人ひとりの負担が大きくなってしまう現状がある。

そこで、本校では、各学年に、道德教育推進教師をおき、学年のなかで、自由に情報交換ができるようにした。それぞれの先生が工夫してつくり上げる授業や自作資料、道德に関する掲示物など、良いものを積極的に全体で共有していく状態をつくる。そうすることで、担任一人で抱え込まずに、職員全体で授業をつくっていく雰囲気ができてきた。

また、本校の研究テーマである、「コミュニケーション能力の育成」を道德でも重視してきた。「道德の時間」のなかで、話し合いやエンカウンター、グループ活動などを取り入れることで、生徒が本音で語り合える手だてを積極的に取り入れてきた。その結果、自分の意見を言ったり、仲間の意見を聞いたりする習慣が少しずつ身についてきた。

② 授業参観日における全校一斉の道德授業公開

今年度は、6月と10月に、授業参観日を設定し、全クラスで、道德の授業を公開した。学年やクラスの実態をふまえて、学年ごとに相談し、主題を設定した。

保護者の方に授業を見ていただくことで、道德の時間における一人ひとりの様子を知っていただくと共に、「生徒たちに今考えてほしいこと」が保護者にも伝わり、家庭教育との連携がよりスムーズにできた。実際に、授業後に感想を言ってくださったり、資料を持ち帰り、家庭で話題にしてくださったりする方も多かった。

今後も、より家庭や地域と連携がとれるような授業公開を目指していきたい。

③ 学校保健集会と連動した授業の組み立て

10月に行った道德授業公開では、学校保健集会(PTA活動の一環でもある)と連動した計画を立てた。今年度は、「ネットコミュニケーションの落とし穴」と題し、ネットの危険性やコミュニケーションの大切さについて、桑原規歌氏(名古屋 NLP 教育センターハートマッスルトレーニングジム塾長)を講師として迎え、講演会を開いた。

そこで、その内容を、より生徒に伝えるため、講演会の前に、全クラスで一斉の道德授業公開を行った。事前に、講師の方と何度もメールなどで打ち合わせをし、各学年でテーマを決めていった。1年生は「メールなどによる心のすれ違い」がテーマの資料を使った話し合いを、2年生は「言葉(文字)の伝わり方～いい言葉、わるい言葉～」をテーマにした話し合いやロールプレイング活動、3年生は「メールでは伝わらない相手の心」をテーマに、いくつかのメール例を通して、話し合いを行った。

講演会の前に、各クラスで授業を行ったことで、講演の内容にすんなりと入ることができていた。

また、ネットコミュニケーションは、これからの社会のなかで、重要なものとなってくるので、引き続き、声をかけていくことで、この取組がより生徒に迫るものになると考える。

④ 自分の将来を考える「生き方講演会」の設定

本校では、毎年1回、「生き方講演会」と題し、外部の方を講師に招き、「生き方」について考える機会を設けている。

今年度は、名古屋で活動する女流漫談家である、さやか結氏に講師として来ていただいた。

自身の人生についてお笑いを交えながらいきいきと伝える語り口に、生徒も集中して話を聴くことができた。

また、生徒の感想には、「自分の好きなことをたくさん見つけたい」「自分のやるべきことを逃げずにがんばりたい」「相手をちゃんと見てコミュニケーションをとっていききたい」などの内容が書かれており、講演を聴いて、多くのことを感じたことが伝わってきた。

⑤ 縦割り活動を取り入れた学校教育活動の取組

体育大会などの学校行事を中心として、本校では、縦割り活動を積極的に取り入れている。それぞれの学年の生徒が、自分たちの学年の立場のなかで、一生懸命に取り組む姿が見られる。真剣にがんばる先輩の姿に憧れたり、後輩のために何かを残そうと全力でぶつかったりするなど、より豊かな心を育てるためには、大切なことであると考えている。

縦割り活動と日常の生活を上手に連動させながら、研究主題である、「心豊かで、よりよい生き方を求める生徒の育成」を目指していききたい。そのために、今後も、いろいろな場面で、この縦割り活動を有効に活用していききたい。

(2) 今後の課題と取組

- ・学年ごとに、「道徳の時間」の年間計画を見直し、今よりさらに、継続的に生徒の心を育てていけるような計画を立てていく。と同時に、より生徒の心に迫れるような資料の開発や授業の展開を考えていきたい。

- ・学校の研究主題でもある、「コミュニケーション能力の育成」を意識してきたが、まだ「道徳の時間」の中で、生徒自身の思いが引き出せていない面がある。今後、いろいろな手だてを工夫していきながら、「道徳の時間」の中でしかできないコミュニケーションや葛藤を、生徒にさせていきたい。